

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スマイルひろば匠 長野若宮店				
		公表日 2025年 2月 28日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		療育室は机に座って活動するエリアと、運動を行う広いエリアに分かれている。今夏、個室を拡充し、専門的支援の実施やクールダウンスペースとして活用している。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		定員10名に対して指導員6名配置しており、手厚く支援をすることができる。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	9		TEACCHの考え方にに基づき、視覚的構造化、スケジューリング等を実施している。家具やパーテーションを用いて活動エリアを分け、落ち着く環境を作っている。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、プライバシーが確保されているか。	9		毎日、清掃や整理整頓、玩具のアルコール消毒を行っている。机や椅子は、お子様の体格にあわせ、2段階に調節可能なものを使用している。大人用トイレしかないため、補助便座やおまるを用意している。	賃貸物件であるため仕方ないが、洗面所とトイレが1つで狭い。 ★トイレが混雑しないように、順番にトイレへ誘導する等の配慮をしています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められているか。	8	1	個室は療育室の音が緩和されるため、聴覚過敏のお子様で落ち着けるスペースとなっている。今年度、事業所用にイヤーマフを購入したので、必要に応じてお子さまに着用を促している。	個室が1つしかないため誰かが使っている場合は、個室へ誘導できない。 ★個室を増やすことは現状難しいので、簡易的に困りを作る等の工夫をしています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)が実施されているか。	7	2	職員全員が情報共有できるスマホのツールを使ったり、朝夕申し送りの時間を設けている。毎月1回職員会を開催し、PDCAサイクルを回すようにしている。	時短勤務の職員は児童がいる時間に勤務しており、児童対応のため話し合いの時間が取れない。 ★月1回午前営業とし、午後に職員会を開催しています。その他の日にも話し合いが出来るように検討していきます。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けているか。	9		自己評価結果及び保護者等からの評価結果は、ホームページで公開している。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	月1回職員会を実施し、その内容を翌営業日から反映している。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9		現在のところ実施していない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内研修を実施しているか。	9		今年度は「巡回訪問支援講座」「子育て福祉勉強会」「乳幼児期支援合同勉強会」「本田先生講演会」「パレット編集長トークイベント」等に参加しました。又、児発管研修、強度行動障害研修、虐待防止・権利擁護研修会も該当職員が受講しました。	パート職員は勤務時間の都合上、なかなか研修会への参加が難しい。 ★研修に参加した職員がしっかりと共有していきたいと思っています。	
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		2025年2月ホームページに公表			
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者との関係構築を図っているか。	9		計画期間ごとにモニタリングを行い、利用者や保護者と面談の上、個別支援計画を作成、同意を得ている。			

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者	8	1	児発管が支援計画作成会議を開催し、アセスメントの共有と、直接支援員の意見を求め、支援計画を検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行	8	1	個別支援計画の支援目標を毎日の連絡帳に記載しており、全職員が支援目標を意識した支援ができるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォー	9		適切に作成している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達	9		適切に作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		お子さまの評価を踏まえ、全職員のアイデアを取り入れながら、チームで立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		前月の活動の評価を踏まえ、季節感を取り入れつつ、固定化しないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ	9		集団と個別、両方のプログラムを取り入れ、支援計画に基づいて支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支	8	1	毎朝の申し送り、毎夕の振り返りを実施している。出勤時間が異なる職員にも児発管より直接情報を共有している。	毎回変わる製作物は、どこを気にかければいいのか、支援の統一が難しい。 ★1人1人の活動目標を明確にし、パート職員にも支援方法を共有できるようにしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた	9		毎夕の振り返りはスマホから見ることができるツールを使用し、休んでいる職員にも共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善	9		スマホのツールを使い、職員全員が日々の記録をとれるようにしている。疑問や改善には目印をつけて意見交換し、改善につなげている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要	9		定期的なモニタリング時に保護者様と面談し、お子さまの情報を共有しながら、適切に見直しを行っている。		
関係機関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との	9		日頃から相談支援員と情報共有し、会議の際は児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育	9		保護者の希望に基づき、医療機関や保育園などの支援会議や情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進	9		保護者の希望に基づき、併用先の園を訪問及び話し合いを行い、移行に向けた推進を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間	9		就学相談の際は関係機関と情報共有や、移行支援会議への参加をしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等				

関 や 保 護 者 と の 連 携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてス	7	2	児童発達支援センターと連携を図り、助言を得ている。又、児童発達支援センターが開催する研修会には積極的に参加している。	パート職員も、もっと勉強したいと思っているが、勤務時間の都合で難しい。当事業所にいるお子さんについて専門家の助言が欲しい時もある。 ★専門職の採用を募集するとともに、引き続き児童発達支援センターと連携していきたいと思
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこ	9		園と併用をしている方もいるため、特別な機会は設けていない。	今後も移行に向けて通園先と連携をしてい
保 護 者 へ の 説 明 等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況	9		毎回、利用時には連絡帳をお渡しし、様子や課題等を伝えている。保護者のご希望に合わせて毎月個別面談や参観を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プ	5	4	ペアレントトレーニングは実施していない。家族支援として面談や参観の機会を設けている。2月21日に親子会を実施。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を	9		契約時に説明を行い、質問等あればその場で答えている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の	9		保護者の意向を伺い、利用児童の最善の利益を踏まえながら支援計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護	9		児発管が直接保護者に説明し、同意の署名をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に	9		毎月の利用希望表を受け付ける際に、個別面談の予約も受け付けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等に	6	3	今年度は手足口病やインフルエンザなど感染症が流行していたこともあり、大勢が集まる機会が難しかったが、2月に親子会を開催。今後も感染症の状況を見ながら計画していきたい。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整	9		定期的な面談以外にも保護者から希望があれば迅速に相談にのれるよう、常に人員基準を確保できるシフトを組んでいる。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することに	9		毎月発行しているスマイル通信や定期的なブログの更新により、活動内容を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		インターネット上に写真をのせる際は、顔や名前を隠す配慮をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための	9		写真やカードなど視覚ツールを利用している。1人1人前回の写真を添付した連絡帳を用意し、保護者に様子が分かりやすい工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運	3	6	地域の自治体に所属し、事業所の運営にご理解をいただいておりますが、地域の方を招待するイベント等は行っていません。	今後も近隣にお住まいの方に事業所の運営についてご理解いただきながら、ご迷惑がからないよう配慮していきたいと思

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、	9		マニュアルを策定し、定期的に研修や訓練を実施している。 非常時の備蓄品、感染症対策の用具、催涙スプレー等の防犯対策を用意してある。	保護者には契約時に緊急時の対応について説明していますが、全てのマニュアルを周知するまでには至っていません。今後、保護者への周知や保護者参加の訓練等、検討していきたいと思います。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備	9		今年度BCPを策定し、研修と訓練を行っている。 利用児童は火災、地震、水害を想定した避難訓練を定期的実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認	9		現在のところ、対象となる利用者はいませんが、アセスメント時に確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対	9		現在のところ、対象となる利用者はいませんが、アセスメント時に確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要	9		安全計画に基づいた研修や訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全	9		契約時に緊急時の対応について説明を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策につい	9		事案が起こった際は、ヒヤリハットを作成し、原因と予防策等を職員間で話し合い、周知に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応	9		外部の研修会への参加、年1回全従業員を対象とした虐待防止研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的	9		身体拘束当禁止適正委員会を設置し、指針や規定を整備しマニュアルを作成している。保護者に対しては「重要事項説明書」に記載し、各々に説明を行っている。		